

平成25年度第3回小国地域委員会

と き 平成25年8月29日(木)
午後3時から

ところ 長岡市小国支所3階大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 報 告

(1) 平成25年度ふるさと創生基金事業の進捗状況について

(2) 第1分科会、第2分科会の検討経過について

(3) その他

4 議 題

(1) 平成26年度ふるさと創生基金事業について

(2) その他

5 その他

・長岡市議会市民クラブとの意見交換について

・長岡市除雪作業支援事業について

・消雪パイプ施設の整備について

6 閉会

事業実施報告書(中間報告)

事業名	小国芸術村企画展
事業の内容	<p>【目的】</p> <p>昭和63年から地域内の芸術文化振興・交流・地域振興の拠点として設置された「小国芸術村」。その主要施設である芸術村会館において毎年「紙」に纏わる縁により特別展を開催した。手漉き紙を基として開催される催事と併せ交流・体験を行うことにより、今後とも無形文化財の「小国和紙」の発信と、「紙」に纏わる縁による作家等との体験・交流を図るもの。</p> <p>また、小国芸術村は小国地域の南端に位置していることから、企画展を開催しそのPRとともに小国地域他施設の情報発信の役割を果たすもの。</p> <p>【内容】</p> <p>① 「ヒマラヤの光を夢みて」 (4月25日から5月12日まで開催)</p> <p>ネパールから紙布作家として世界的に活躍されているディーパック・R・シュレスタ氏の作品展示とヒマラヤの紙に魅せられた日本の作家の方々の作品を展示するもの。併せて、小国地域3小学校をシュレスタ氏が巡り、ヒマラヤの紙を使った紙布作りの特別授業を行い、児童に自分の手で作ることの楽しさや地元小国紙をより身近に感じる感性を育むもの。</p> <p>② 「地域と人を結ぶ交流展」 (5月18日から6月30日までの土日開催)</p> <p>おぐに折り紙アートの展示をきっかけに出会った各地域ゆかりの方々と合同作品展を行うことで、他地域の良さを知り、また小国地域の良さを発信するもの。</p> <p>【主な出展者】 相波葉子氏(小国地域)、上野伸雄氏(長岡地域)、大矢幸二氏(和島地域)、多田清虹氏(栃尾地域)、藤田久子氏(見附市)、松岡達英氏(川口地域)</p> <p>③ 「小国和紙を焼く」～市展 県展 入選作品展～ (7月6日から8月25日まで開催)</p> <p>和紙を焼き物にする新技法で注目を集め、長岡市内で「うつわや美野里和楽庵」を主宰する小黒陶三氏の作品を技法解説を添えて展示するとともに小黒氏が指導する美野里焼陶芸教室から育ち、公募展や各種展示会で活躍中の作家の市展県展入選作品を展示するもの。</p> <p>併せて小黒氏を講師に迎えて、小国和紙を使用した和紙焼のお皿を制作する体験教室を開催し、第一線で活躍されている作家から指導を受け、物を作る喜びや交流を更に進めるもの。</p> <p>④ 「小国町展」・・・開催予定 (9月14日から10月27日まで開催)</p> <p>町内小・中学校児童・生徒の作品と陶芸教室・絵手紙サークルの方々の作品を展示するもの。</p>

<p>事業の実施による効果</p>	<p>手漉き和紙からできる作品を鑑賞することにより鑑賞者の感性を育むことができた。 第一線で活躍されている作家と直に接し、作品に触れ、手ほどきを受けたことにより、子どもたちに夢を与えた。また普段体験できない手法(和紙焼)の作品づくりを行うことで物を作る喜びや発見を体験したい。 小国芸術村企画展のPRとともに、小国の情報発信の一翼を担いたい。 (和紙焼体験に小国地域外の方からも申込みがあった。)</p>
<p>今後の課題</p>	<p>今後も継続した取組みと小国地域の伝統である「小国和紙」の啓発とあわせ、芸術文化の発信を行う必要がある。 小国芸術村はもとより小国地域を知ってもらうための情報発信の方法(広く周知する方法)を模索する。 小国地域をより知ってもらうため、アオーレ長岡との連携を深め、作品展示を進める。</p>

事業名	子育て・親育ち応援事業
事業の内容	<p>【目的】</p> <p>少子化が顕著となっている小国地域において、「地域の宝」である子どもを取り巻く環境を見直し、楽しく希望を持って健やかな子育てを応援する。あわせて、祖父母や地域住民からも今どきの子育てを理解してもらい、地域全体で子どもの成長を見守る体制づくりを目指すもの。</p> <p>【内容】</p> <p>①子育て講演会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就学児保護者：9月頃、講師は子どもの虐待防止ネット・にいがた草間代表(予定) ・小中学生保護者(ポニーカーニバルと子どもフェスティバルを同時開催)：9月23日、講師は NTT ドコモ、テーマは「ケータイ安全教室入門編」、(フェスティバル：和紙生産組合や技大生ボラ等による工作等教室) ・祖父母：10月下旬、講師は造形大学学生、助産師酒井由美子氏、テーマは「かわいい孫の写真の撮り方について」「今どきの子育てについて」 <p>②ママ友交流会への講師派遣</p> <p>4月：お菓子づくり(講師：山崎陽子氏)、5月：おやこふれあい遊び(講師：ひまわり保育園星野副園長)、6月：子どもの写真の上手な撮り方(講師：高田佳彦氏)、7月：ママたちの避難訓練(講師：長岡市助産師会)、8月以降も実施予定。</p> <p>③1歳児・2歳児・3歳児各期の子育て教室の開催</p> <p>1歳児：助産師佐藤順子氏のベビーマッサージ(9月7日)</p> <p>2歳児・3歳児：運動指導士渡辺美香氏のおやこレクリエーション(8月24日、8月31日)</p> <p>各期で、定期開催のための自主サークル化を目指して支援していく。(各期数回講師派遣可能)</p> <p>④母親学級の開催</p> <p>10月と2月予定。赤ちゃん抱っこ体験や貧血予防のための試食などを行う。</p> <p>⑤子育て親育ち応援事業実行委員会(年3回)</p> <p>第1回：5月9日午後1時30分～3時30分 於：小国地域総合センター</p> <p>内容：今年度の事業説明と情報交換(子育て支援センターの利用者が少ない、主任児童委員は小国地域の子育て事情を把握する機会が少ない、祖父母に今どきの子育てを理解してほしいなどの声が出ていた)</p>
事業の実施による効果	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや親子同士の仲間ができ、小国地域での子育てが楽しいと思える。 ・子育てサークルが立ち上がる。 ・何か困ったときに相談しあえる仲間ができる。 ・祖父母から今どきの子育て事情を理解してもらい、ママの子育てを応援できる。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な事業を開催していく中で、参加者を多く集められるか課題である。 ・ターゲットとしている子どもやその保護者が大勢参加してもらえるか課題である。(実行委員会のママたちの意見を参考に、少人数グループを作って、集まりを開催していきたい)

事業実施報告書(中間報告)

事業名	「おぐにまつりEVENT」PR事業(第1弾)
事業の内容	<p>【目的】</p> <p>小国地域で開催される四季のまつり(もちひとまつり・おぐに大花火大会等)を長岡地域内外に周知PRを行い、まつりイベントへの集客・誘客拡大を図り、地域の活性化、小国地域のPR、また地域経済の発展に繋がる情報発信の役割も果たした。</p> <p>【内容】</p> <p>…PR事業第1弾: もちひとまつり・おぐに大花火大会</p> <p>イベント開催周知用に丸型うちわ2,000枚と開催チラシ入りポケットティッシュ3,000個を作製して、長岡地域内外の集客施設に配置して来場者に配布・PRを行った。(7~8月)また、長岡地域で開催されるイベントにも参加し、その際にPRグッズとして活用した。</p> <p><参加イベント></p> <p>①夏の交通安全運動(交通指導所:7/24) ……平安衣装を着てグッズをドライバーに配布</p> <p>②かかしまつりPR展示に相乗り……………かかし展示と一緒にPRグッズの提供(7/19~8/20)</p> <p>③長岡まつり(ふれあい広場:8/2) ……平安衣装を着て大手通り会場でグッズを配布、ナカドマステージでまつりの番宣と丸型うちわ配布</p> <p>④米百俵まつり(時代行列:10/5)に参加…見物客にポケットティッシュを配りPR</p>
事業の実施による効果	<p>小国のまつりとして例年に比べ、もちひとまつり・おぐに大花火大会の開催周知や地域PRの効果が上がり、8月25日開催のまつりへの集客が期待できる。小国地域情報の発信により、地域物産の売上活性化も期待できる。</p>
今後の課題	<p>小国の四季のまつりPR第1弾として、取り組みに少し遅れた感があったが、これから続く第2弾(おぐに秋まつり)、第3弾(おぐに雪まつり)については、十分な準備とタイミングに留意する必要がある、更なる工夫と実践が必要と考える。</p>

小国地域委員会「第1分科会・第1回」意見交換要旨

日 時 平成25年7月12日(金)

19:00~

会 場 小国支所 会議室

1 小国地域女性と子どもが過ごしやすい環境整備に関すること

- ・ 小国地域の組織は、ほとんど男性主体の組織である
- ・ もちひとまつり企画運営委員会には、若い人と女性をぜひ登用すべき
- ・ 住みやすい環境を議論する際は、女性のビジョンが必要

2 地域のお祭りや行事を観光誘致や産業振興に活用できないか

- ・ 地域委員会として取り組む課題としてはいちばん良いと思う
- ・ 冠を決めてその名前の中で進めるほうが小国はまとまり易い
- ・ いろいろな取り組みをしているが、一部の人間が動いているだけ
- ・ 別々の組織だが、同じような人が兼ねていることが多い
- ・ 一生懸命になればなるほど側が冷めていく傾向がある
- ・ 経費がかかるが収入とリンクしない、地元にお金が落ちない
- ・ 祭り関連の弁当やグッズが何も無い
- ・ 参加して楽しかった、儲かるかなという期待感が必要
- ・ 小国はPRが下手
- ・ おぐりんをもっと活用すべき
- ・ 1回目は盛り上がり、ある程度までいくが長続きしない
- ・ 小国の地域活性化は、まず内をまとめてから外へ発信していく
- ・ 若い人との交流がない、先頭に立っている人はみんな同じ人で若い人がいない

3 少子高齢化、医療・福祉関係について

- ・ 昨年までの福祉関係の活動を今後どうするのか
- ・ 生活環境も他市町村の人が思うほど悪くないが、医師不足は大きな問題
- ・ 小国にとって診療所は大きな財産である
- ・ 医師の問題は分科会では検討しづらいと思う
- ・ 医師が確保できないと入院病棟やおごしの里の維持もできなくなる
- ・ 診療所が小国地域の中核機関なんだという位置づけをする
- ・ 小国地域内でのかかりつけ制度を推進する
- ・ 診療所と福祉施設をどうやったら守れるのか、みんなの理解が必要
- ・ 子どもの数が少なく、競争意識もなく、子どもが伸びないと思う
- ・ 学校統合等については、親・家族の気持ちを反映させるべき

4 その他の意見

- ・ 3つの課題は大きすぎて絞らないといっぺんには解決できない
- ・ あれもこれもだと全て中途半端になってしまう気がする
- ・ 議論していくと全部繋がってくる、最終的には小国をどう住みよい地域にするか

小国地域委員会「第2分科会・第1回分科会」意見交換要旨

期 日 平成25年7月12日(金)

会 場 小国支所 会議室

1 分科会テーマ = 「女性と子どもが過ごしやすい環境整備」

- ・子どもたちの将来のことを考えて学校問題を検討していきたい。
- ・小国地域の女性と子どもの環境整備に取り組むことにより、他の課題にも波及してくる。

2 学校問題に関する意見(今後の進め方)

(1) アンケートに関する意見

- ・地域委員で地域の実情を把握する必要がある。
- ・何年後にどこの小学校の児童数や学級数の状況等を、保育園の園児数等を把握した上で、アンケートを行う必要がある。
- ・「働く場所がない、子どもが少ない、だから小国を出て行く」、「小児科がなく不便だから」といった意見を聞いたことがある。そういった意見をアンケートから搾り出して今後の方向性を検討したい。

(2) 意見聴取に関する意見

- ・地域の意見を聞くことが重要。学校、住民、総代さんの意見を聞きながら、まとめていきたい。
- ・近々の課題は、学校問題。学校訪問か、PTAの総会の際には地域委員が出て、顔つなぎをしたい。また、第2分科会は総代連から2名参加いただいているので、そちらとも協力していきたい。
- ・現在の子育て環境に対する意見を、地域に出向いて聞く必要がある。

(3) その他

- ・統廃合の話は、小国地域全体で統合の話を進めていく必要がある。
- ・学校統合にはどこが先頭にたっていくかが問題だとは思う。PTAと総代連が先頭に立っていった方が良いと思う。

相野原育成会との懇談会意見交換要旨

期 日：8月9日（金） 午後8時30分頃から

出席者：地域委員＝13名、相野原育成会＝12～13名

1 福祉・医療・子育てに関する意見

- ・ 旧小国町時代、人間ドッグの補助がでたが、また出るようにしてほしい。
- ・ 子どもが3人いると医療費が520円になるが、1人目から520円にしてほしい。
- ・ 東京から帰ってきたが、小国の人には子どもを見てくれているので育てやすいと感じている。しかし、医療費がかかる。
- ・ 小児科がないので、他の市町村からでも良いので出張で来てもらえるようにならないか。
- ・ 子どもの病院は、ほとんど町外。お金の補助をしてほしい。
- ・ 最近離婚して実家に戻ってくるケースが多い。その子どもたちをどういう風に扱って良いのか。

2 まちづくりに関する意見

- ・ IターンやUターンの農業体験者を増やすための方策が必要だ。
- ・ 働く所がほしい。だんだん人口が少なくなり、地域に住む人がいなくなる小国は自然しかないの、別荘をつくり都会の人から来てもらうしかない。
- ・ 小国地域としての「祭り」を統一してほしい。「もちひと」「雪まつり」などいくつもいらぬ。

3 環境整備に関する意見

- ・ 森林公園が活かされていない。花などを植えてみてはどうか。
- ・ 子どもの遊ぶところがない。（森林公園の遊具を整理してほしい）
- ・ 子どもの遊び場がない。（公園に遊具等がない）

4 その他の意見

- ・ まつりや行事を支所から別の機関に移行できないか。
- ・ 子どもの数が少ない。若者の住宅をもっと増やしてほしい
- ・ 自分の代では農業はやらない。

長岡市小国地域ふるさと創生基金事業実績

平成17年度

事業名	事業額	事業目的・内容
集落防災計画策定事業	1,750,000円	中越大震災では地域コミュニティの大切さが改めて見直されている。本事業により地域コミュニティの基礎単位である集落の防災体制を整備し災害に強い小国地域づくりを進める。

平成18年度

事業名	事業額	事業目的・内容
おぐに地域フラワーパーク助成事業	453,255円	集落内の空き地等を利用し、花壇作りを行う。花壇の箇所数・面積・レイアウト・花の種類などは自由とし、300本以上の花の植栽を事業の対象とする。
高齢者介護予防対策事業	743,476円	介護予防の重要性が増した中高年者に対し、効果的な運動の機会を提供することにより、健康づくり・介護予防の意識向上を図り、元気高齢者を増やし健康寿命を延ばす。また、リーダーとなる運動指導者と共に、地域での自主活動を支援し活性化を図ることで、いつまでも元気で自立した生活をすることを目的とする。
長岡市おぐに森林公園林間再生計画作成事業	984,624円	検討委員会を設置し、森林公園にある林間を再生し、手入れされた緑の森づくりのための計画づくりと、そのために必要な試験的な活動を専門的にすることを目的とする。

平成19年度

事業名	事業額	事業目的・内容
法末神楽舞等文化財記録保存伝承事業	2,289,659円	地域に密着してきた伝統芸能を見直し、後世に語り継ぐため、継承がいっそう困難になる前に映像として保存し、伝承するための方策を模索する。

平成20年度

事業名	事業額	事業目的・内容
森林公園芝生植栽・山野草園拡充事業	1,411,520円	おぐに森林公園第一林間広場は、公園開園当時は芝生広場であったが、現在は芝が消失してしまっている。安全な芝生広場を甦らせるとともに、山野草園の整備をすすめ、森林公園の魅力を高めて誘客を図る。
「もっと知りたい」事業・実頼編	500,844円	大河ドラマの放送を期に、地域の歴史に目を向ける歴史講演会及び歴史シンポジウムを開催することで、地域を理解し、愛する心を育み、新市一体感醸成に寄与する。

平成21年度

事業名	事業額	事業目的・内容
小国芸術村特別展「紙漉き」体験・交流事業	368,235円	無形文化財「小国紙」発祥の地、山野田地区において、紙漉き実演や体験教室の実施による特別展を開催し、地元小学生との体験交流から地域芸術文化の発展と振興を図る。
森林公園芝生植栽・遊歩道魅力づくり（案内看板設置）事業	1,396,055円	平成20年度の継続事業として実施。あわせて「天地人」ゆかりの小国城跡までの遊歩道に案内看板を設置し、おぐに森林公園の魅力を高め誘客を図る。

平成21年度

事業名	事業額	事業目的・内容
法末野営場里山づくり 体験事業	323,044円	<p>地元中学校が実施する地域貢献活動の協力を得て、法末野営体験広場の遊歩道整備や芝植え管理、果樹の植樹など自然体験学習環境整備を行い利用者の増加を図る。</p> <p>また、地元の方からの聞き取りによる手作り図鑑の作成など地域住民との交流や里山づくりによる地域の魅力再認識を促す。</p>

平成22年度

事業名	事業額	事業目的・内容
小国芸術村特別展 「衣人紙舞台」事業	486,360円	<p>無形文化財「小国紙」発祥の地、山野田地区において、和紙と古紙を融合させた展示会や催しによる特別展を行うもの。地方から都市への地域文化の情報発信及び都市交流を行うとともに、小国文化の魅力を高める。</p>
小国の魅力発信事業	1,543,500円	<p>小国地域専用のWEBサイトを開設し、きめ細かい観光情報や文化的行事等を発信することにより、小国地域の魅力を世界に発信する。</p> <p>住民主体の地域情報発信事業として、2ヵ年事業の初年度として取組む。</p>

平成23年度

事業名	事業額	事業目的・内容
<p>小国芸術村特別展 「紙の使い手」小川原 めぐみ作品展事業</p>	<p>559,485円</p>	<p>無形文化財「小国紙」発祥の地、山野田地区において、和紙と古紙を融合させた展示会や催しによる特別展を行うもの。地方から都市への地域文化の情報発信及び都市交流を行うとともに、小国文化の魅力を高める。紙工芸作家小川原氏が、屏風、灯り、コラージュ、額、軸などに仕立てた作品を展示。併せて小国地域3小学校を小川原氏が巡り、小国手すき和紙を使った作品作りの特別授業を行い、児童に自分の手で作ることの楽しさや地元小国紙をより身近に感じる感性を育む。</p>
<p>小国の魅力発信事業</p>	<p>594,300円</p>	<p>小国地域専用のWEBサイトを開設し、きめ細かい観光情報や文化的行事等を発信することにより、小国地域の魅力を世界に発信するため、拡充コンテンツの整備を行う。 ※住民主体の地域情報発信事業として移行するため継続事業として取組む。 ※24年度以降の運営については「小国観光協会よっていがんかい」が行う。</p>
<p>これからの医療と福祉を考えるシンポジウム 地域委員分科会提案 ※分科会協議案件について事業化。</p>	<p>784,035円</p>	<p>小国地域では、人口の減少とともに少子高齢化が急速に進行しているため、高齢化が進む中で地域の暮らしや健康を守り、医療環境を維持していくことが大きな課題となっている。地域におけるこれまでの医療や福祉環境の変遷を踏まえ、小国地域が抱える医療・福祉・保健の現状と課題を共有し、今後の方向性を考える機会とするため、広く地域住民の参加を募り地域医療等への理解を深めるためシンポジウムを開催。</p>

平成24年度事業

事業名	事業額	事業目的・内容
小国芸術村企画展事業	961,649円	無形文化財「小国紙」発祥の地、山野田地区において、和紙と古紙を融合させた展示会や催しによる特別展を行うもの。地方から都市への地域文化の情報発信及び都市交流を行うとともに、小国文化の魅力を高める。
高齢者元気支援事業	591,688円	高齢化が進行している小国地域で住民と関係者が参加するワークショップを企画、開催し、現状を自分たちの問題として捉え、多様な人との新たなつながりを築く場とする。また、いつまでも自立した生活ができるための筋力や認知症を予防するけんこつ体操教室の充実や、地域型介護予防デイサービス修了後の受け皿づくりを、「協働」の視点で取り組み高齢化しても元気な小国地域を目指す。
元気な小国を育てる事業	441,523円	<p>食に関する講演会とウオーキング大会を実施することで各自が食生活を振り返ると共に、体を動かすことの心地よさを実感し運動を始める動機付けの機会としたい。また、体育功労者と優秀競技者賞の表彰を併せて行いスポーツに取り組む幅広い世代へ向けた激励の場としたい。</p> <p>当日の参加者を増やすための工夫や次年度以降も事業を継続して実施するために、企画段階からアドバイザーや他団体との意見交換を行う等役割分担を図りながら、健康づくりの気運を広めたい。</p>

平成25年度事業予定

事業名	事業額	事業目的・内容
小国芸術村企画展事業	970,000円	無形文化財「小国紙」発祥の地、山野田地区において、和紙と古紙を融合させた展示会や催しによる特別展を行うもの。地方から都市への地域文化の情報発信及び都市交流を行うとともに、小国文化の魅力を高める。
子育て・親育ち応援事業	550,000円	少子化が顕著となっている小国地域において「地域の宝」である“子ども”を取り巻く環境を見直し、必要ならば改善し、楽しく希望を持って健やかな子育てを応援する。あわせて、祖父母や地域住民からも今どきの子育てを理解してもらい、地域全体で子どもの成長を見守る体制づくりを目指すもの。
「おぐにまつりEVENT」PR事業	620,000円	小国地域で開催される四季のまつりを長岡地域内外に周知PRを行って、各まつりイベントの集客・誘客拡大を図り、地域の活性化、小国地域の周知や地域経済の発展につなげたい。

「市民クラブと支所との意見交換会」

長岡市小国支所

平成 25 年 9 月 3 日(火) 午後 3 時開会

1 診療所機能の維持（医師確保）

地域医療を担う小国診療所機能を維持（病床 19 床）するため、医師の確保対策を進める。（医師 2 名体制＝内 1 名 H25 年度末で退職予定）

2 地域コミュニティの維持・再生

① 小国地域コミュニティセンターの開設

コミュニティ推進準備委員会を設置し、平成 26 年 4 月の開設に向けて諸準備を進める。 【主な検討項目】 組織、センター機能、現有施設の利活用他

② 冬季間の安心・安全の確保

冬期における雪害からの不安解消のため、集落住民が主体となる共助組織の確立を支援する。

3 教育・福祉施策の推進

① 高齢者の介護予防事業等の推進

長岡市内の高齢化率第 2 位の地域性を踏まえ、住民と関係機関が協働して実施する「介護予防や健康づくり」事業を支援する。

② 子育て・親育ち応援事業の実施

少子化が顕著な中で、楽しく希望の持てる健やかな子育てを応援し、地域全体で子どもの成長を見守る体制づくりを目指す。

4 生活環境の整備

① 消雪パイプ施設の更新整備と適正管理

冬季間の生活道路安心確保の要（市道 井戸 126 本、49.4km）となる、消雪パイプ施設の適正管理を図る。

（井戸 12 本、メインパイプ 7 箇所更新、不良ポンプ及びノズル等の改修 他）

② 生活交通の運行支援

利用者の利便性の確保と効率的な安定運行体制のもと、継続可能な公共交通を確保するため、運行主体（NPO 法人 MTN サポート）への財政的支援を行う。

住民代表及び公共交通機関等の代表者で構成する「地域公共交通協議会小国地域分科会」を設置し、適宜、住民生活に密着した運行体制を検討する。

「小国診療所医師確保対策」の進め方

1 基本的事項

- 当面は、後任医師の募集・確保対策（情報収集）を積極的に進める。
- 上記と並行して、確保できない場合の対応策について、関係部局及び地元関係者と協議を進め、本年10月をめどに運営方針を決定する。

2 事業スケジュール（経過を含む）

○ 6月4日 第1回意見交換会開催

（対象者） 計7名

細井市議、地域委員長、同副委員長、
集落総代連絡協議会々長、同副会長2名、
山崎嘉寛氏（金子医師友人・建設業振興会々長）

（協議内容）

- ・ 現況説明
- ・ 今後の対応
- ① 医師の確保対策（情報の収集及び提供依頼）
- ② 住民対応（周知方法＝地域委員会、総代会、住民説明会等）
- ③ その他（今後の進め方）

○ 7月10日 第2回意見交換会開催

- ・ 金子医師との懇談（現状認識）
- ・ 医師確保の現況確認
- ・ 募集状況について 他

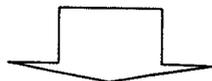
○ 7月中旬～8月中旬

- ・ 情報収集強化月間＝関係団体・者との情報交換
- ・ 総代会、地域委員会、民児協において状況報告及び情報提供などの協力を要請

○ 8月5日 県関係機関意見交換会（県、上越市、胎内市、阿賀町、長岡市）

○ 8月12日 第3回意見交換会開催

※以降当分の間、月1回ペースで意見交換会を開催



医師募集・情報収集・交渉他

平成 25 年度 長岡市除雪作業支援事業補助金のご案内

長岡市では、冬期間における安心安全な市民生活を確保するため、共助による除雪作業に要する除雪機の燃料費相当額を補助し、地域の除雪活動を支援する制度を今年度から創設いたしました。

1 補助対象とする団体

・ 町内会、自主防災会、集落、PTA、ボランティア団体等の営利を目的としない団体

2 補助交付対象となる主な除雪箇所

- ・ 公民館、集会所等の公共的なエリア、駐車場
- ・ 通学路の確保
- ・ 地域の危険箇所やゴミステーション、防火水槽など

※個人所有敷地内については、補助対象外

3 補助対象となる除雪機

- ・ 対象団体所有の除雪機
- ・ リース、レンタル（個人所有含む）及び市から無償貸与されている除雪機

4 交付額

- ・ 除雪作業1時間当たり、燃料費相当額として500円を共助組織に補助

5 交付限度額

- ・ 1団体当たり、30万円

【お問い合わせ・提出先】・・・共助組織の所在する地域単位で提出ください。

<長 岡>長岡市役所 地域振興戦略部（大手通庁舎7階） Tel39-2260

その他の地域・・・長岡市役所 各支所 地域振興課

<中之島> Tel61-2010

<越 路> Tel92-5902

<三 島> Tel42-2242

<山古志> Tel59-2328

<小 国> Tel95-5905

<和 島> Tel74-3112

<寺 泊> Tel75-3111

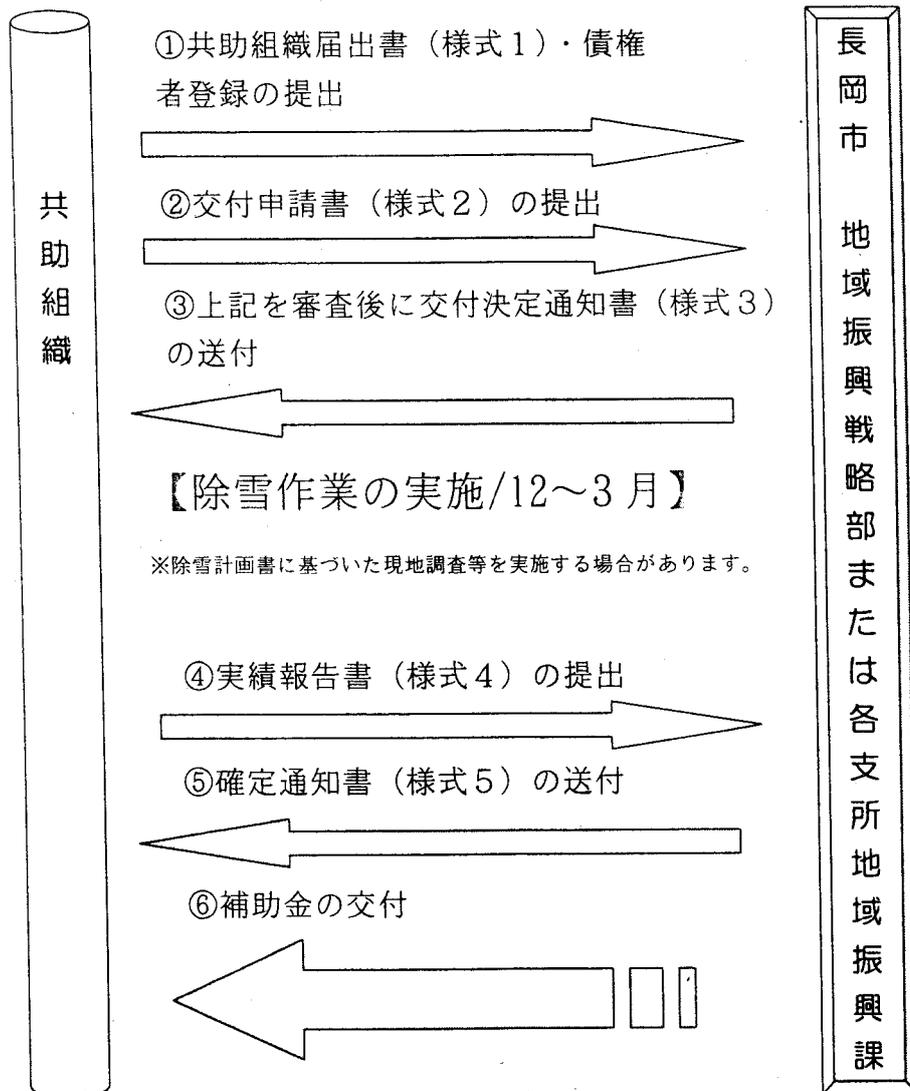
<栃 尾> Tel52-5815

<与 板> Tel72-3101

<川 口> Tel89-3111



長岡市除雪作業支援事業補助金事務手続きフロー



※留意事項

- ・④の提出については、除雪作業を行った翌月中に提出してください。
- ・毎月④の手続きを繰り返し行ってください。

例 12～3月の毎月除雪作業を実施した場合

⇒除雪作業を実施した翌月に④を提出。ただし、3月実施分については、3月末日付けで提出してください。④の提出に基づいて、毎月⑤、⑥補助金の交付を行います。

- ・②の交付申請書については、除雪計画書に基づいた時間数と交付申請額を記入してください。

- ・実績報告書に基づいて補助金を交付するため、交付決定通知書の額と実際の補助金の交付額が異なることがあります。

消雪パイプ施設の整備状況について

H25.08.29

産業建設課

1 消雪施設整備工事の実施状況

- | | | |
|----------|--------------|-----|
| ○ 発注済工事 | 取水施設更新(井戸更新) | 5箇所 |
| | 散水管更新 | 5箇所 |
| ○ 発注予定工事 | 取水施設更新(井戸更新) | 8箇所 |
| | 散水管更新 | 2箇所 |

2 維持修繕事業の実施状況

- 大規模改修（ポンプ及び制御盤等の改修）
5箇所（平成24年度末時点の不具合箇所を優先実施）
- ノズルの取替え
合計1,000個をめどに実施（調査により実施箇所を特定）
- 漏水及び管清掃
39箇所
（平成24年度末時点の不具合箇所を優先実施）

3 事業日程（予定を含む）

- 7月23日・28日
消雪パイプ維持管理方法に関する講習会
（第1回 22集落・69人、第2回 17集落・54人）
- 8月～9月8日
消雪パイプノズル等不具合箇所の調査（各集落に依頼）
- 11月下旬
消雪施設整備工事・維持修繕事業 実施完了(予定)
- 12月上旬
消雪パイプ稼動開始